

J Hosp Infect 2017 ; 96 (3) : 223-228

中心ライン関連血流感染の頻度を低減するためのクロルヘキシジングルコン酸塩またはポリヘキサメチレンビグアナイドのディスクドレッシング：実用性に関する無作為化比較試験（CLABSI 試験）

Chlorhexidine gluconate or polyhexamethylene biguanide disc dressing to reduce the incidence of central-line-associated bloodstream infection : a feasibility randomized controlled trial (the CLABSI trial).

Webster J, Larsen N, Marsh N, Choudhury A, Harris P, Rickard CM.

背景

中心ライン関連血流感染（CLABSI）を防止するための抗菌薬含浸ディスクがいくつか販売されているが、どのディスクが最も効果的かについては明らかでない。

目的

CLABSI 防止目的で 2 種類の抗菌薬含浸ディスクの実用性と安全性を比較する。

方法

オーストラリアにある 929 床の単一施設で末梢挿入型中心ラインカテーテル（PICC）を挿入される入院患者に対して、クロルヘキシジングルコン酸塩（CHG）またはポリヘキサメチレンビグアナイド（PHMB）のディスクを無作為に使用した。PICC 抜去または退院まで経過を追った。臨床的アウトカムは CLABSI 発生頻度と全ての BSI、製品に関連した有害事象。

結果

143 人を研究対象とし、除外・脱落例を除いて 100 例が解析対象となった。合計 1,217 カテーテル日の間に BSI は 3 件発生し、うち 1 件は粘膜障害関連 BSI であり、CLABSI は双方 1 件ずつであった。CHG 群に 1 例のみディスク関連の有害事象が発生した。

	患者数	延べデバイス日	CLABSI (件)	CLABSI 発生率
PHMB	51	562	1	1.8
CHG	49	547	1	1.8

結論

PHMB 含有ディスクはカテーテル挿入部に対して安全に使用できる。

監修者コメント

CHG 含有スポンジと CHG 含有ゲル付きドレッシングの CLABSI 防止効果は、2009 年と 2012 年にそれぞれ質の高い無作為化比較試験で証明されている。しかし、価格が依然として高く、普及しているとは言えない。著者らは、別の安価な薬剤である PHMB を含有したスポンジの感染防止効果を検証するにあたり、まず少数で実用性と有害事象の試験を行った。結果は両者に差が無く、大規模な比較試験に進んでよいというのが結論。そのような比較試験の結果が楽しみではあるが、その一方で、このような少数の症例でも、研究テーマが明確になっていれば感染制御の一流誌に採択されることは、日々の研究を論文化することの大切さを感じさせられる。

監修者

森兼 啓太（山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授、感染制御部 部長）